

第2章  
3 施策領域

# 地域共生社会

## あるべき姿(概ね30年後)

- 県民誰もが、性別<sup>※1</sup>、年齢、障害の有無、民族、国籍などの多様性を認め合い、支え合いながら自分らしく活躍でき、安心と活気あふれる共生のまちづくりが進んでいます。

## 目指す姿(10年後)

- 県民は、地域コミュニティへの参画や地域活動への参加の機会を得て、地域とのつながりを強め、多様な主体との協働による見守り合いと支え合いが生まれ、安心して暮らしています。
- 「住民間」、「住民と専門職」、「専門職間」等が連携・協働し、日常生活上の困り事を抱える方々が早期に発見され、相談を漏らさず受け止め、課題の解決につながっています。
- 県民の障害に対する正しい理解が進み、障害特性に応じた総合的な支援が行われることで、障害者とその家族が、地域社会の中で安心して暮らしています。
- 外国人が地域社会の一員として、地域とつながりを深めながら、生活に必要な情報の共有が進むことにより、外国人が困ったときに相談できるなど、孤立することなく安心して生活しています。
- 人権意識や男女共同参画意識を高める啓発を受ける機会が広がり、個々人の性別<sup>※1</sup>、年齢、障害の有無、民族、国籍などの様々な違いを認め、尊重し合う意識が醸成されています。
- 個々人の違いを尊重し互いに支え合う環境が整うことで、県民が安心して生活するとともに、それぞれが持つ多様性を強みに転換しながら、地域社会で自分らしく活躍しています。

## 指標

困りごとや悩みに対して地域の方同士での助け合いができている人の割合



※1 性別には、身体的な男性と女性の区別だけでなく、自分の性別に対する認識である「性自認」（「心の性」とも言われる。）や、恋愛や性愛の対象となる性である「性的指向」などの概念を含む。

## 目指す姿の実現に当たって考慮すべき課題

- 近年、家族や地域の支え合い機能が低下し、地域のつながりが薄まる中で、従来の福祉制度により対応してきた課題に加えて、ダブルケアや8050問題などの複合的な課題や制度の狭間の問題が顕在化しており、福祉課題を抱えた人や世帯が発見されず、具体的な支援につながっていないケースがあります。
- 今後、更なる高齢化の進行と高齢者の単独世帯の増加に伴い、従前の地域コミュニティ活動等への参加が難しくなるにつれ、地域社会の中での居場所がなく、ひきこもりがちになるなど、リスクの発見につながりにくくなり、支援が遅れるおそれがあります。
- 「障害者に関する世論調査(H29内閣府)」によれば、「障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがある」など具体的な行動をとれた人の割合は6割程度にとどまっており、また行動できなかった主な理由としては、「どのように接したらよいのか分からない」と答えていることから、未だ、障害に対する理解は十分に進んでいるとは言えません。
- 今後、転職などが可能となる新たな在留資格制度の導入促進による外国人の増加が見込まれる中、これまで以上に外国人と地域とのつながりを深め、外国人の社会的な孤立を防ぐ必要があります。
- 女性の社会進出や外国人の増加など多様性が進む中において、その違いを認め、多様性を受け入れるための啓発活動を行ってきましたが、十分に浸透していると言える状況にはありません。そうした中で、性的指向・性自認の理解促進やインターネット上の人権侵害事案の発生など、新たに対応が必要な状況が生じています。

## 目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 1 住民と多様な主体の連携・協働による課題の解決**  
地域住民と民生委員・児童委員、企業・ボランティア、NPO、まちづくり協議会等、それぞれの地域特性に沿った多様な主体が連携・協働し、住民の抱える課題の重篤化の抑制やコミュニケーションの増加、共助による支え合いなどの取組を進めます。また、地域リーダーと専門職等が連携しながら、積極的な訪問による働きかけなどのアウトリーチを行い、公的な福祉サービスだけでは対応できない地域の生活課題を早期に発見する仕組みづくりを進めます。さらに、こうした仕組みにより発見された事案や相談を漏らさず受け止め、解決につなげるため、市町における制度の枠を超えた相談支援体制の構築を後押しします。
- 2 障害者とその家族が安心して生活できる環境整備**  
子供世代からの理解促進のための取組や、各種団体との連携による様々な活動等を通じて、障害への理解と協働による共生を図ります。また、保健・医療の充実や地域生活の支援体制の構築により、障害者とその家族が身近な地域で安心して生活できる環境の整備を進めます。
- 3 外国人が安心して生活できる環境整備**  
外国人が、地域とつながりを深めるための共生の仕組みづくりや、医療・防災・教育などの様々な分野で安心できる環境の整備を進めます。
- 4 多様性を認め、それぞれの違いを尊重し合う環境づくり**  
個々人の性別<sup>※1</sup>、年齢、障害の有無、民族、国籍などの様々な違いを認める正しい知識を周知するとともに、その違いを尊重し合う意識を醸成する啓発活動を展開します。

NPO…Non-Profit Organization の略。一般的に「民間非営利組織」と訳されており、福祉や環境問題、子供の健全育成などの社会的な課題に取り組んでいる団体。  
アウトリーチ…生活上の課題を抱えながらも、自ら相談機関に行けない個人や家族に対して、支援者が積極的に対象者のいる場所に向かい働きかける支援方法。